

自主学習会「なす会」への御参加 ありがとうございました

10月23日（木）の特別支援教育の自主学習会をもちまして、今年度予定していた「なす会」をすべて終えることができました。今年度は総勢157名（特別支援教育114名、学級経営・授業づくり24名、生徒指導力向上19名）の先生方に参加していただきました。来年度も先生方の期待に応えられるよう企画したいと思います。

研究指定校の実践

各研究指定校におかれましては、校内研での共通実践、研究紀要の作成、公開授業の準備等、本当にありがとうございました。参観させていただいた公開授業について一部紹介させていただきます。

【11/6(木)みやき町立中原中学校 教育課程】

生徒たちの自ら学びに向かう姿勢を育成するため、「課題発見」「課題解決」「振り返り」の3つのプロセスで「16の中原情報活用スキル」を用いた学習活動を教育課程全体を通して効果的に配置した取り組みが行われていました。

日常的には、学習記録の蓄積で学びの足跡を残したり、同じデータを共同編集したりすることで、生徒自身の情報収集・活用能力と学びに向かう力を高められているそうです。公開授業の3年道徳科の授業では、「16の中原情報活用スキル」の「比較する」に焦点を当てたものでした。生徒一人一人の多様な意見を表出させるためホワイトボードを活用して交流し、多面的・多角的な視点をもたせようとする場面がありました。

【11/14(金)鳥栖市立麓小学校 理数教育】

算数科1年生の「かたちづくり」では、色板をパズルのように動かしながら楽しく課題に取り組んでいました。「三角形や四角形の板が何枚分かな」と数で表すことで、形が違っていても広さを比べられることに気づき、みんな教え合う姿が印象的でした。

算数科5年生の「面積」では、台形の求め方に挑戦しました。プリントに補助線を書き込んだり、タブレット端末で図形を動かしたりと、自分に合った方法で答えを導き出し、主体的に問題を解決しようとする姿が見られました。

「魅力的な教材との出会い」や「具体物を扱う時間の設定」、「学び合う活動の充実」等、『問題解決の力を育むための授業改善の視点』を生かした取り組みが実践され、児童の実感を伴った理解へとつながっていました。

【11/20(木)佐賀市立昭栄中学校 外国語教育】

「伝え合う喜びを分かち合える生徒の育成 -領域統合型の言語活動の充実を通して-」というテーマで「インプット」「アウトプット」「インタラクション」の3観点を自由に組み合わせ、コミュニケーションを図ることのできる生徒の育成が目指されていました。2学年合同で行われた授業では、2年生グループが1年生に海外の学校生活についてのプレゼンテーションを行い、1年生からの質問に答えていました。全3回のプレゼンテーションの合間には中間指導が行われ、生徒の発表は回を重ねる毎に改善していきました。

また、名古屋外国語大学の田地野彰教授の「意味順」指導を取り入れて、ホワイトボードには「玉手箱」、「だれが」、「する・です」、「だれ・なに」、「どこ」、「いつ」の順でカードが提示してありました。「意味順ノート」の活用により、英文の意味理解に支障をきたす文構造の誤りを防ぐことができます。授業では、生徒の大半はメモ（マッピングシート）を見ずに英語で発表し、発表を聞いた生徒からの質問に答えており、実際のコミュニケーションに近い言語活動が行われていました。

【11/21(金)多久市立東原産舎東部校 小中連携】

「自ら学び、判断し、表現する児童生徒の育成を目指した授業改善」という研究主題のもと、公開授業が行われました。東部校では、「東部校学習スタイル」を確立し、全学年で「もくもくタイム（自力解決の時間）」や「こだまタイム（協働的な学習の時間）」を取り入れた共通実践に取り組まれています。

今年度は、教科部会を、文系・理系・表現系とし、教科の特性を生かした体系的な指導方法の改善や「東部校学習スタイル」の更なる深化を図られています。6年国語科の授業では、「もくもくタイム」で児童が目的に沿って自分の表現を見直したり、「こだまタイム」で友達の表現を取り入れて改善したりする様子が見られました。9年間の連続性を生かした取り組みにより、どの学年においても熱心に対話する様子が見られ、学ぶ意欲の向上につながっていました。参観後の研究協議では、先生方による熱心な意見交換が行われ、「例文を示すなど細やかな手立てがなされた『もくもくタイム』が効果的だった」という意見が出ていました。

東部教育事務所来庁について

10月14日（火）にニュー寺元ビル2Fへ移転いたしました。建物入口は専門学校と同じです。駐車場は前回の『Together(第5号)』でお伝えしたとおりです。（QRコードで確認できます。）

